

令和元年度 沖縄県振興審議会 第3回離島過疎地域部会議事要旨

令和元年10月11日（金）14：00～16：00

議題【今後の審議の進め方等】について

なし。

議題【第1回、第2回部会委員意見の審議結果（案）】について

○No.10、総点検報告書（素案）2章66頁27行目の離島・へき地の支援についての意見に対し、審議結果（案）は「充実に取り組むため、引き続き診療所への施設及び設備の整備や運営に要する経費の補助を実施する必要がある」となっている。これはこれまでのものと同じことを引き続きやるということであるが、意見としては、「それを一層充実させてほしい」ということを言いたかった。もっとやってほしいということ盛り込んでほしい。

○No.81、総点検報告書（素案）3章573頁17行目の海岸漂着物の回収処理に関して、沖縄21世紀ビジョン基本計画等検証シート（参考資料）の「3-（11）-イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上」の主な予算事業の中の5番目に、「海岸漂着物の適正処理及び国内外の発生源対策の推進」が「達成」となっている。設定した目標値は達成されていても、事業・取り組みが達成されたとは言えないということを申し上げたい。これに限らず、ありとあらゆる目標の設定について、改めて検討と見直しが必要である。

○No.81、総点検報告書（素案）3章577頁1行目の「離島の生活環境基盤の整備と廃棄物処理」に関して、廃棄物処理については、第5章でのみ扱うのではなく、第3章、第4章でも扱うべきではないか。第5章で書かれている知見や具体的対策が、今後、県全域の施策として、事業としてどう生かされていくか、実施されるかが焦点である。圏域別ではなく、県全体の重要課題として廃棄物の問題を位置づけるべきである。

第3章、第4章の中で、課題として少し挙げられてはいるものの、現状も、取り組みの評価も、今後の課題も全く出てこない。

○No.46、総点検報告書（素案）3章570頁20行目に続けて「目標とする姿の指標については、定期的実施している県民意識調査における県民満足度を引用しており、平成30年8月調査では、初めて小規模離島を対象とした調査を行い、離島住民の意識やニーズの把握に努めた。今後は、多様な環境にある離島地域の振興施策に反映させるため、当該調査の継続及び指標への反映を検討する必要がある。」とした意見に対する審議結果（案）の後段、

離島調査については、「実施する」ではなく「検討する」と行政用語が使われている。県民意識調査（離島調査）は、離島と過疎地でどのあたりが一番不足しているか分析できる内容になっているので、離島調査は継続してほしい。

○No.7、総点検報告書（素案）2章97頁37行目「港湾の整備」についての意見は、あえて「港湾施設の増設」という言葉を入れさせていただいた。審議結果（案）のどこかに表現として入っていると理解してよいか。

議題【第3回部会調査審議等 検討テーマ「離島の特色を生かした産業の振興と新たな展開」】について

○総点検報告書（素案）3章590頁35行目、4章679頁7行目「農林水産業の振興の課題及び対策」について、離島・過疎地域の農産物及び農産加工品のブランド化の成功事例があったら教えていただきたい。関連して、離島・過疎地域を対象に、品質や付加価値の立証に必要な支援が行われているのかどうか教えていただきたい。

○総点検報告書（素案）3章592頁7行目、4章680頁6行目「特産品やプロモーションなどマーケティング支援等の強化」に関して、これまで支援がなかなか行き届かなかった小規模離島の事業者への支援について、これまでの具体的な取り組み、あるいは今後どのような展開や可能性があるのか教えていただきたい。まずは特産品、プロモーションなどのマーケティング支援について、さらに石垣島や宮古島のような規模の島と、そうではない島に対して、支援・枠組みがあるのかどうか。

○総点検報告書（素案）3章587頁24行目「着地型観光プログラムの開発」について、585頁「観光客増大に向けた誘客活動」は、言い換えれば量の拡大で、それにとどまらない質の向上が課題である。587頁に記載のある「滞在日数を長くする」、「1人当たりの消費額を増やしていく」というのは非常に重要なポイントである。島別の入域観光客数、宿泊能力、観光客の滞在期間など、宮古と八重山以外の島々を含めて、基礎的なデータを収集・整理し、今後役に立てていく必要がある。島々の個性や魅力を生かした着地型観光プログラムの開発との関わりで重要な要件である。

○総点検報告書（素案）3章587頁39行目に「県外において認知度が低い小規模離島については、観光客の増加に向けた重点的な支援が必要である」と記載がある。地元の収益を拡大する必要がある。具体的な方策の1つとして、第三種旅行者という資格制度がある。着地型観光開発プログラムの担い手として、第三種旅行者というのは重要な切り口で、特に離島の旅行業・観光業の主体になり得るものではないか。

- 総点検報告書（素案）3章 586 頁 30 行目、「クルーズ船」について、寄港回数の増加だけを指標としている目標値の設定にはいささか違和感がある。ただ増やしていくという目標の設定ではなく、クルーズ船についての総合的な分析や評価、寄港地周辺の経済効果と併せて、良質な観光を確保するための「観光管理」の視点が必要である。
- 総点検報告書（素案）3章 588 頁 7 行目「観光関連産業における深刻な人手不足」に関連して、外国人材の活用が記載されている。本当に離島で外国人の受入拡大に向けた取り組みを推進するのか。その場合は、人手不足を補うための単なる労働力ではなく、生活者として外国人を受け入れる体制が不可欠である。地域社会との関わりを抜きに、安直な受け入れは進めるべきではない。594 頁の「多様な人材の就業促進、職業能力の向上、労働環境・処遇改善に向けた取組」が重要ではないか。
- 総点検報告書（素案）5章 753 頁 14 行目「世界自然遺産登録」に関する記載について、世界遺産登録後はこれまでよりもさらに多くの観光客が押し寄せるような状況を想定すべきである。オーバーツーリズム対策は待ったなしであり、世界自然遺産登録の対象地区以外についても、持続可能な観光管理が必要である。とりわけ離島は非常に環境への負荷に弱く、離島地域の持続可能な観光管理は重大な課題である。県が主催する世界自然遺産候補地地域連絡会議の「受け入れ可能な来訪者数の調査と設定」、「地域主導の来訪者管理体制」、「環境負荷低減のための来訪者負担金」、「観光関連産業が地域社会に貢献する仕組み」という4つの取り組みの柱は、ほかの離島でも検討すべき課題ではないか。
- 総点検報告書（素案）3章 583 頁 7 行目「目標とするすがた」について、観光リゾート産業の「目標とするすがた」が、今後も観光客数の拡大が最優先とされる観光振興ならば違和感がある。今回の総点検を機に、「観光客数の増加」だけを評価の指標とする目標設定の見直しと改善を行うべきではないか。とりわけ離島については、持続可能な観光管理を重視した観光振興が求められている。その意味で、離島観光の実態を把握するための基礎データ、これを踏まえて、それぞれの島の条件やニーズに適うきめ細かな観光振興を進めるべきである。
- 農産加工品の支援策について、県は島々のブランド化を支援しているが、ブランドとして認知されているところまでいってない気がする。例えば、ふるさと納税の返礼品になっているとか、全国的なベースで認知されているとか、いくつか例示してくれるとわかりやすい。
- 総点検報告書（素案）4章 676 頁 5 行目「離島観光の国際化の対応として、海外の旅行博における観光プロモーションやチャータークルーズの増加を踏まえた旅行会社へのセー

ルスプロモーション等を実施した。」とあるが、プロモーション等を行った海外がどこなのか伺いたい。

○観光公害に関して、沖縄に限らずいろいろな地域で関心が高まっている。離島地域で島を訪れている観光客数について「1日当たり平均観光客数が島の人口を超えている島」で割り出したところ、沖縄では、水納島、竹富島、嘉弥真島の3島である。このような地域では、いろいろな問題が起きているので、次の10年に向けて考えると、観光公害に関しては記載されるのがよいのではないかと。

○総点検報告書（素案）4章 676頁以降に観光公害に関する記載がないため入れていただきたい。

○総点検報告書（素案）4章 676頁 18行目に関して、受け入れ地域側がルールを敷かず、経済に任せると、例えば島外の企業と地元の方々が軋轢が生まれる。オーバーツーリズムに対して、既に対応をとっている先進事例は世界を見ればたくさんある。映画のロケ地になったとか、何かでPRされたといった理由で、今は全く人が来ていない場所に一気に来ることがある。それからでは遅いので、あらかじめルール作りをしておいたほうがよい。

○総点検報告書（素案）3章 586頁 4行目に、県外において認知度が低いという離島の課題は述べられているので、そこをどうしていくのかは非常に重要な課題である。

○欧米、台湾など、海外からの観光客は確実に増えてきており、離島に行き始めているが、海外に対する情報発信が不足している。総点検報告書では、国内の課題しか記載されていないが、県外だけでなく、海外に対する情報発信が、離島の観光振興に役立つのではないかと。特にインターネット、フェイスブックなどいろいろなところで情報発信されているが、そこをどううまく使いながらやっていくのかというのが今後の課題である。

○総点検報告書（素案）3章 584頁と 585頁にある図表が、年となっていたり年度となっていたり、図表 3-3-12-4 では 27年と 27年度が2つ書かれていたりする。統一すること。

○総点検報告書（素案）3章 587頁<主な成果指標の状況>、国内客の離島訪問率が、本島周辺の離島が、23年度よりも29年度は5.3から3.9に下がっているのはなぜか。離島を訪れる人は、その生活や食に期待してくるが、それを受け入れる側は、非常に小さな民宿がほとんど、野菜、魚は冷凍食品で、期待が外れる。島の中のどのようところで宿泊しているのかということまで、支援の目は入っているのか、支援していかないと魅力はあまり出てこない。

- 台風でガソリンを離島に運べないという新聞記事があった。値段を下げるだけではなく、備蓄対策も必要である。ソーラーシステムを活用して、レンタカーを全て電気自動車にするぐらいのことをして、ガソリンだけに頼らないということもやってはどうか。
- 小さな離島で、驚くほどの変化を見せる島がある。竹富が島の景観を守ろうとしているように、ほかの島でも何らかの規制というか、島の雰囲気を守る体制を県と一緒に考えていく必要があるのではないか。
- 小規模離島の医療においては、観光客の増大に備えて、行政や観光関連企業と診療所との連携、また外国人観光客が適切な医療を受けられるよう、通訳などの取り組みを推進する必要がある。この動きはあるが、総点検報告書（素案）3章 588 頁 11 行目にもう一回書いておくことが必要である。
- へき地医療、離島医療というのは、一にも二にも人材確保である。医療事務も島にいないことが多いので、人材の充実強化を図るような講座の開設などを総点検報告書（素案）3章 594 頁 35 行目に追加してはどうか。
- 総点検報告書（素案）3章 570 頁<目標とするすがたの状況>、一番下の「良質な医療が受けられること」の21年度が、宮古が17.8%、八重山が16.5%しか受けられてないと感じている。30年度は、宮古31%、八重山23%とあって、医療従事者としては考えられない数字である。「良質な医療」という定義がはっきりしていない。
- 小規模離島の診療所は1次医療で、きちんとしている。2次、3次に送るという形ができている。3次は揃っていないかもしれないけど、2から2.5次まできちん揃っている。全部揃っていないという飢餓感がある数字かもしれないが、それは良質な医療が受けられていることにはつながらない。
- 外国人観光客の対応は一部始まっているが、それをもっとすすめてほしい。改めて取り上げることによって、そうするのだということをみんなの意識の中で持ってほしい。
- 離島過疎地域においては、いわゆるオーバーツーリズム、観光公害が起きているので、その対策をどうするかという部分も含めて記述が必要である。これからの離島過疎地域の観光は、数も大事かもしれないが、量から質への転換の取り組みも必要である。
- 観光の面では、もっと地域の住民が潤う観光を目指すべきであり、そういった記述が必要である。稼ぐ力の推進が必要ではないか。

○総点検報告書（素案）3章 590 頁中段あたりに「グリーン・ツーリズム等を通じた都市との地域間交流による農山漁村地域の所得向上に向けた取り組みを強化する必要がある」とあるが、それ以上具体的なことが記載されていない。過疎地域である東村では、1996年に沖縄の市町村で初めて行政目標としてグリーン・ツーリズムの推進をうたって、いわゆる農家民泊（現在は教育民泊）を立ち上げた。地域住民が潤うという観光には、農業体験を取り上げたグリーン・ツーリズムも非常に効果がある。

○総点検報告書（素案）5章「圏域別の取組」について、沖縄本島の中南部への一極集中はこれからますます進むであろうと予測されるが、離島・過疎地域と、沖縄本島中南部の地域間格差をどうしていくかということも大きな課題ではないか。

○やんばると西表島、奄美が世界遺産登録に動いている。そうであるならば、なおさら先ほど言った観光公害も起きてくるであろうし、高速道路で許田インターチェンジを出て名護市内に入るまでの慢性的な交通渋滞を解決しなければ、テーマパークであるとか、あるいはクルーズ船など、いろいろな構想はどうにもならないと思う。

○観光客がほとんど行かない島がある。そのような島の観光振興をどうするかということも考えていただきたい。

○離島地域の産業振興あるいは定住条件の整備の一番ベースになるのが交通インフラである。離島の産業振興をする上では、まず、とにかく島に行ける交通手段があるということが大前提である。報告書の組み立て上、触れられてないと思うが、交通手段が非常に重要であるという考え方をどこかに表現できないか。

○サトウキビの生産性の向上のためのいろいろな施策を打って、製糖企業に対していろいろ支援もしている。しかし、製品がきっちり売れて、経済効果として還元されているかというところ少し疑問である。最近、黒糖の在庫が相当あるという新聞報道があった。入り口から出口まで意識した施策を取り入れてもよいのではないか。

○砂糖の取り扱い方を、例えば含蜜糖も分蜜糖も一緒に扱っているが、離島の場合は含蜜糖も別々に扱ってほしい。含蜜糖は在庫が3,000トン余りあって、危機的な状況である。離島にとっては、サトウキビ農家の死活問題につながる可能性がある。

○総点検報告書（素案）4章 670 頁 5 行目に、「加えて、Uターン希望者についても定住促進を目的とし、同様に交通コスト低減に取り組む必要がある」と追加していただきたい。

○総点検報告書（素案）4章 681 頁 7 行目に、「このため、特に離島については、地域の特性を考慮し、行政、地域社会を連携した研修プログラムの作成に取り組む必要がある」と追加していただきたい。

○総点検報告書（素案）4章 683 頁に、「または、離島地域間においても、防災、医療、教育など、離島地域固有の課題解決に向け、相互の交流と情報共有促進に努める必要がある」と追加していただきたい。

○総点検報告書（素案）3章 587 頁<主な成果指標の状況>について、外国人観光客は非常に重要になっているので、それも取り込んだ指標にした方がよい。人材育成としても、離島で通訳士を育てますと記載されている。外国人観光客も指標に反映させたほうがよい。

○総点検報告書（素案）3章 585 頁「観光リゾート産業の振興」について、オーバーツーリズム、自然環境、地元の文化等に配慮した観光振興をすべきということがこれまでの議論で出ている。これらについては、総括して、離島分としてきちんと前段で位置づけをすると全般的に重要性が表記できるのではないか。文化観光スポーツ部や環境部とも調整して、文案を検討いただきたい。

○久米島の海洋深層水はここ 10 年でかなり伸びている分野ではないか。それぞれ離島で、例えば長命草のように全国ブランドになっているものもある。そういう側面を適切な箇所にきちんと記載してほしい。

○離島観光の危機管理についても、どこかで触れていただきたい。

その他

なし

以 上